

「出来事を刻む」

～主を覚えて時を刻む～

詩編 70 編

一年の始まり、私たちは主の前にどのような姿で出ているのでしょうか？主は、私たちの多くの傷と罪（＝心、すなわち考え方、価値観）を新しくするため、自ら犠牲となり、死にまで従われました。そしてその偉大なる愛をお示しになりました。その機会をお与えくださった主を覚え記念して、この一年も主がともにいてくださる喜びに感謝して、新しい主の価値観でまっすぐに歩いていきましょう。

■ 詩編 70 編 指揮者のために、 ダビデによる。記念のために。

ダビデは王サウルに命を追われ、一番苦しみの中にあった時に心の内を素直に主に訴え、そしてその祈りの中で自分に言い聞かせました。

70：1 神よ。私を救い出してください。主よ。急いで私を助けてください。

70：5 私は、悩む者、貧しい者です。神よ。私のところに急いでください。あなたは私の助け、私を救う方。主よ。遅れないでください。私たちは主の前でそのように素直になれているのでしょうか？自分を正当化して、相手のことを指差し裁いてはいないのでしょうか？目の前で起きた出来事に対して自分の価値観で捉えているようなことはないか、心の隅々を振り返り主の前にどのような目線が出るのか、今一度思い起こしてみましよう。

■ 出来事を刻む 主を覚えて時を刻む

記念日、節目はなぜ必要なのでしょう？記念という言葉には、主を求めよ！（思い起こす、長く記憶し忘れないための手段）という意味が含まれています。新年を迎える節目にあって、初心に立ち返り襟を正す意味とはどういったことなのでしょう。神様を信じて歩む私たちは、主のしてくださったことを何一つ忘れないように、言動が伴う姿が必要です。そのために、主の前に出る時、正直に思いを打ち明けて自分の前にいつも主を置いて決断していきます。

■ ①もう一度視点（始点）を確かめる

あなたは生きてるとされているが実は死んでいる。主の前で心が変わらされるとおのずと顔つきも変わります。今日、あなたの顔にはどのような生き様が刻まれているのでしょうか？私たち

は、必要とされていることを心から理解しなければ、変わる決断ができません。愛されている実感を心から持てなければ、心が聞き従うための耳を持てません。心がその人の顔つきを変えます。心とは価値観です。主を求め続けていく中で、価値観を新しく変えられた救いの喜びに立ち返り、素直に主に向かいましょう。立ち返る（生き返る）ため、賛美を通して自分を調整をし日々新しくされた喜びに、元気に喜ぶ姿で主に感謝します。

■ ②置かれたところで幸せを見出す

詩編 16：5～11 ダビデは王サウルに追われ続ける中、それでも置かれた状況に対して、主を信じ感謝を捧げました。主の計画に身を委ね、救いを一心に求めました。それはダビデからできたことなのでしょう。可能性は、主の御前にあって自分で何かと成し遂げることなど皆無であることを知った、すべての人に与えられています。何事も自力で行うことをせず、手をつなぎいつも右にいてくださる主を有事では前に置き、決して感情的にならず、相手のために正しく感情を用いて決断をすることが、もっとも解決の近道であることを感謝をもって受け取っていきます。私たちは、行ってその実を結ぶために置かれた、ことを感謝します。

■ ③新しくされ続ける 振り回されない

小さな私たちといつも共にいてくださり、騒ぐ時には翼の陰に隠してくださる主。そんな方がいつも右にいてくださる私たちは何事にも影響を受けず右にも左にも揺れ動く必要はないのです。今日あなたはどのような目線で主の前にでていますか？